

第50期中間報告書

Semi-Annual Report

平成18年11月1日から平成19年4月30日まで



D r e a m & B e a u t y

夢のないところに実現はない
田崎真珠は、創業以来50年余、大自然の営み
から生み出される『真珠』をこよなく愛し、
養殖から加工・販売に至る一貫体制のもと、
ダイヤモンドや色石とともに、
その美しさすばらしさを世界中の人々の心に
お届けできることを、大きな誇りとして参りました。
これからも、心温まるジュエリーとの
出会いを通じて、
みなさまとの信頼関係をより強いものに
して参りたいと考えております。



代表取締役社長

田崎俊作

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。また、平素より格別のご愛顧とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成19年4月30日をもちまして、第50期事業年度の中間決算を行いましたので、ここに事業の概況ならびに主要事項につきましてご報告申し上げます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Trust, Craft and Globalism

“グローバルな一貫体制”と “顧客満足 of 更なる向上”



事業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善と設備投資の増大により緩やかな成長が続いていますが、個人消費は横ばいのまま推移いたしました。宝飾品業界におきましては貴金属材料の高騰や顧客ニーズの多様化など厳しい環境下にありました。このような状況の中で当社グループは、中期計画のスタート年度にあたり、グローバルな製販一貫体制のもと、お客様満足度の向上を図り、財務体質改善に注力し、資産の圧縮と有利子負債の削減に所期の実績を残すことが出来ました。また、真珠製品を中心に積極的な新商品開発と拡販に取組みました。

当中間連結会計期間の売上高は、148億31百万円（前年同期比0.4%増）、経常利益は1億18百万円（同83.7%減）となりました。中間純利益は、特別利益に固定資産売却益99億33百万円、特別損失として「棚卸資産の評価に関する会計基準」の早期適用による評価損73億99百万円及び、固定資産の減損損失を19億65百万円計上したこと等により、32億21百万円の損失（前年同期は13億91百万円の損失）となりました。

セグメント別の概況

■部門別の概況

小売事業

小売事業の売上高は88億18百万円で77百万円（前年同期比0.9%）の減収となりました。これは主に国内市場においてダイヤ製品の売上が不振であったためであります。営業利益は、営業費用が1億93百万円増加し、2億70百万円減益の14億50百万円となりました。

卸売事業

卸売事業の売上高は60億円で2億25百万円（前年同期比3.9%）の増収となりました。これは主に、海外子会社の売上が好調であったことによるものであります。営業利益は、営業費用が5億58百万円増加したことにより3億8百万円減益の3億83百万円となりました。

その他事業

その他の事業は外食事業であり、売上高は11百万円で89百万円（前年同期比88.3%）の減収となりました。これは、残っていた1店舗を閉店したことによるものであります。営業利益は、営業費用が1億23百万円減少し、7百万円の損失（前年同期は40百万円の損失）となりました。

■主要な経営指標等の推移(連結)

区分	第48期 (平成17年10月期)		第49期 (平成18年10月期)		第50期 (平成19年10月期)
	中間期	期末	中間期	期末	中間期
売上高 (百万円)	14,179	28,555	14,772	29,122	14,831
経常利益 (百万円)	500	899	728	493	118
中間(当期)純利益または 中間(当期)純損失(△) (円)	238	△534	△1,391	△1,482	△3,221
純資産 (百万円)	39,040	38,669	37,139	36,884	33,464
1株当たり純資産 (円)	1,047.23	1,036.34	996.70	990.12	898.64
自己資本比率 (%)	43.5	44.7	43.7	44.9	48.5

●貸借対照表 CHECK. 1

(単位:百万円)			
科目	当中間期 (平成19年4月30日現在)	前中間期 (平成19年4月30日現在)	前期 (平成19年10月31日現在)
資産の部			
流動資産	47,003	50,538	48,315
現金及び預金	4,709	3,848	3,370
受取手形及び売掛金	3,091	2,892	3,094
たな卸資産	33,312	40,943	39,408
その他	6,035	2,948	2,613
貸倒引当金	△ 144	△ 94	△ 170
固定資産	21,925	34,371	33,909
有形固定資産	15,399	23,928	23,660
無形固定資産	147	2,410	2,415
投資その他の資産	6,379	8,032	7,833
投資有価証券	2,858	3,328	3,060
その他	3,818	4,971	5,135
貸倒引当金	△ 297	△ 267	△ 362
繰延資産	18	11	—
資産合計	68,947	84,921	82,224



●損益計算書 CHECK. 2

(単位:百万円)			
科目	当中間期 (平成19年4月30日現在)	前中間期 (平成19年4月30日現在)	前期 (平成19年10月31日現在)
売上高	14,831	14,772	29,122
売上原価	7,685	7,305	14,896
売上総利益	7,146	7,467	14,226
販売費及び一般管理費	6,544	6,165	12,561
営業利益	602	1,302	1,664
営業外収益	71	66	145
受取利息及び受取配当金	13	10	38
為替差益	20	23	27
その他	36	32	80
営業外費用	555	639	1,317
支払利息	440	401	817
その他	114	238	499
経常利益	118	728	493
特別利益	9,967	32	101
固定資産売却益	9,933	—	2
貸倒引当金戻入額	34	32	—
投資有価証券売却益	—	—	36
確定拠出年金移行差益	—	—	62
特別損失	11,492	2,001	2,021
固定資産除売却損	1,909	7	22
減損損失	1,965	1,985	1,985
投資有価証券評価損	51	8	12
たな卸資産評価損	7,399	—	—
その他	167	—	—
税金等調整前中間(当期)純損失(△)	△ 1,406	△ 1,240	△ 1,425
法人税、住民税及び事業税	3,766	380	273
法人税等調整額	△ 1,951	△ 229	△ 217
少数株主利益	0	0	0
中間(当期)純損失(△)	△ 3,221	△ 1,391	△ 1,482

●キャッシュ・フロー計算書 CHECK. 4

(単位:百万円)			
科目	当中間期 (平成19年4月30日現在)	前中間期 (平成19年4月30日現在)	前期 (平成19年10月31日現在)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 727	△ 28	997
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,357	100	809
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,002	24	△ 1,690
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	△ 4	6
現金及び現金同等物の増減額	△ 362	93	122
現金及び現金同等物の期首残高	2,667	2,544	2,544
現金及び現金同等物の期末残高	2,304	2,637	2,667

●株主資本等変動計算書 CHECK. 3

	株主資本					評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成18年10月31日残高	16,664	16,361	1,354	△ 197	34,183	467	2,096	136	2,701	36,884
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当(中間)			△ 149		△ 149					△ 149
土地再評価差額金取崩			809		809					809
中間純損失(△)			△ 3,221		△ 3,221					△ 3,221
自己株式の取得				△ 8	△ 8					△ 8
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△ 88	△ 809	46	△ 851	△ 851
中間連結会計期間中の変動額合計			△ 2,561	△ 8	△ 2,569	△ 88	△ 809	46	△ 851	△ 3,420
平成19年4月30日残高	16,664	16,361	△ 1,206	△ 205	31,614	379	1,287	183	1,849	33,464

CHECK. 1 貸借対照表

総資産は、前年同期比**15,974**百万円減少しました。これは固定資産の売却及び減損損失などによる固定資産の減少**12,446**百万円、たな卸資産の減少**7,631**百万円などです。負債は**12,298**百万円減少しました。その主なものは有利子負債の減少**15,361**百万円です。

CHECK. 2 損益計算書

売上高は、前年同期比**59**百万円増加しました。売上総利益が**320**百万円減少し、販売費及び一般管理費が**379**百万円増加したことにより、営業利益は**699**百万円減少しました。営業外損益を加減し、経常利益は**610**百万円の減少となりました。特別利益は**9,967**百万円、特別損失に**11,492**百万円計上したことにより、税効果計算の結果、中間純損失は**3,221**百万円の損失となりました。

CHECK. 3 株主資本等変動計算書

株主資本合計は、中間純損失**3,221**百万円等を減算し、土地再評価差額金取崩額**809**百万円を加算した結果、**31,614**百万円となりました。評価・換算差額等合計**1,849**百万円を加算し、当中間期末純資産合計は前中間期末残高より**3,420**百万円減少し、**33,464**百万円となりました。

CHECK. 4 キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは**7**億**27**百万円の減少となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の純増加額**17**億円、固定資産の売却による収入**163**億**29**百万円などにより、**143**億**57**百万円の増加となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出**139**億**73**百万円、社債償還による支出**15**億円などにより、**140**億**2**百万円の減少となり、現金及び現金同等物は、**3**億**62**百万円の減少となりました。

●貸借対照表

科目	(単位:百万円)		
	当中間期 (平成19年4月30日現在)	前中間期 (平成18年4月30日現在)	前期 (平成18年10月31日現在)
資産の部			
流動資産	44,925	48,425	45,787
現金及び預金	4,148	3,396	3,039
受取手形及び売掛金	3,529	3,655	3,700
たな卸資産	31,454	38,499	36,832
その他	6,368	3,377	2,842
貸倒引当金	△ 575	△ 504	△ 627
固定資産	24,171	36,521	36,165
有形固定資産	15,286	23,804	23,539
無形固定資産	39	2,304	2,307
投資その他の資産	8,845	10,413	10,318
投資有価証券	5,244	5,798	5,491
その他	3,900	4,882	5,192
貸倒引当金	△ 299	△ 267	△ 364
繰延資産	18	-	-
資産合計	69,115	84,947	81,952

科目	(単位:百万円)		
	当中間期 (平成19年4月30日現在)	前中間期 (平成18年4月30日現在)	前期 (平成18年10月31日現在)
負債の部			
流動負債	18,686	19,959	17,312
支払手形及び買掛金	606	467	317
短期借入金	6,210	6,210	6,050
一年内返済予定の長期借入金	6,402	2,150	8,140
一年内償還予定の社債	-	2,700	1,500
一年内償還予定の転貸社債	-	6,550	-
その他	5,468	1,882	1,304
固定負債	16,079	27,015	27,352
社債	1,500	-	-
長期借入金	7,625	19,450	19,860
退職給付引当金	5,158	5,175	5,153
再評価に係る繰延税金負債	1,417	2,033	1,971
その他	377	356	367
負債合計	34,766	46,975	44,664

資本の部			
資本金	-	16,664	-
資本剰余金	-	16,361	-
利益剰余金	-	2,382	-
土地再評価差額金	-	2,188	-
その他有価証券評価差額金	-	566	-
自己株式	-	△ 191	-
資本合計	-	37,972	-
負債及び資本合計	-	84,947	-
純資産の部			
株主資本	32,682	-	34,723
資本金	16,664	-	16,664
資本剰余金	16,361	-	16,361
利益剰余金	△ 138	-	1,894
自己株式	△ 205	-	△ 197
評価・換算差額等	1,666	-	2,564
その他有価証券評価差額金	379	-	467
土地再評価差額金	1,287	-	2,096
純資産合計	34,348	-	37,288
負債及び純資産合計	69,115	-	81,952

●損益計算書

科目	(単位:百万円)		
	当中間期 (自平成19年1月1日 至平成19年4月30日)	前中間期 (自平成17年11月1日 至平成18年4月30日)	前期 (自平成17年11月1日 至平成18年10月31日)
売上高	13,935	14,062	27,834
売上原価	7,460	7,322	15,092
売上総利益	6,474	6,740	12,741
販売費及び一般管理費	6,110	5,759	11,777
営業利益	364	980	964
営業外収益	502	522	620
営業外費用	594	659	1,364
経常利益	273	842	221
特別利益	9,988	32	102
特別損失	11,228	2,237	2,256
税引前中間(当期)純損失(△)	△ 966	△ 1,362	△ 1,932
法人税、住民税及び事業税	3,717	399	261
法人税等調整額	△ 1,990	△ 308	△ 310
中間(当期)純損失(△)	△ 2,693	△ 1,453	△ 1,884



新店舗 オープン

●国内

関門海峡を望む九州の玄関口・北九州市。そのランドマーク、小倉駅北口にそびえるリーガロイヤルホテル小倉に、リーガロイヤル小倉店をオープンいたしました。(平成18年12月)

●海外

また、台湾では台北復興店(平成19年1月)、中国では天津海信広場店(同4月)、成都伊勢丹店(同5月)がオープンいたしました。

※尚、国内では田崎真珠エスノリ店(平成19年5月)、中国では常州東方商厦店(同3月)を閉店いたしました。



▼リーガロイヤル小倉店

OPENING SOON

平成19年6月に韓国・ヨジュに、また国内では同7月に兵庫県神戸市に、それぞれアウトレット店をオープンいたします。

T O P I C S

TASAKIの 新しい定番が 誕生!

あこや真珠の新しいロングネックレス「**十二単**」が誕生。

二重巻き・三重巻きにしてもポイントカラーが重なり合うという特徴があり、従来になかったマルチカラーの美しい彩りをお楽しみいただけます。この色の重なりから「**十二単**」と名付けました。ロングネックレスのため、

アレンジは自由自在。今までにないモダンで華やかな雰囲気演出できます。また、あこや真珠とクリスタルストーンの二重奏、「**瀑布**」も大変ご好評をいただいております。

そして、ハイクラスな魅力を感じていただけるTASAKIの新しいシリーズ「**ダイヤモンドコレクション“生命の輝き”**」を発表。TASAKIのデザインスピリット「エレガンスと繊細さと新しさ」をお楽しみ下さい。また、3ストーンダイヤモンド「**トリロジー**」シリーズも、すっかりタサキのメジャーアイテムになってきています。



▲「あこや真珠マルチカラーロングネックレス「十二単」」



▲「ダイヤモンドコレクション“生命の輝き”」



▲マベ・パール

「幻の真珠」といわれる大粒の**マベ・パール**。それは、希少なマベ貝に半円の核を挿入してつくられる特別な真珠。核の形そのままに真珠ができるため、シンプルなドーム型から、リーフ型、ドロップ型、ハート型までヴァリエーション豊か。そして虹色の輝きを放ち、ダイナミックで個性的。カジュアルからフォーマルまで幅広くお使いいただけます。田崎真珠は1970年、世界で初めてマベ真珠の養殖に成功。他にはないオリジナル製品を開発しています。「タサキの**マベ・パール**」は、美しさと品質の高さにおいて世界一といわれる奄美大島のマベ貝から生まれます。



▼「瀑布」

■ 会社の概要 (平成19年4月30日現在)

商 号	田崎真珠株式会社
創 業	昭和29年1月10日
会 社 設 立	昭和34年12月11日
資 本 金	16,664百万円
従 業 員 数	1,321名
決 算 期	10月31日
営 業 目 的	真珠の養殖、加工、販売および宝石、貴金属を用いた宝飾品の製造販売ほか
本 社	〒650-8550 神戸市中央区港島中町6丁目3番地2 TEL. 078-302-3321
東 京 本 社	〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目4番1号 TEL. 03-5561-8856
インターネット ホームページURL	http://www.tasaki.co.jp

■ 役 員 (平成19年4月30日現在)

代表取締役社長	田 崎 俊 作
代表取締役副社長	植 田 義 昭
代表取締役副社長	田 崎 俊 明
取締役副社長	田 崎 東 次 郎
取締役副社長	田 崎 征 次 郎
専務取締役	芝 原 茂 信
常務取締役	有 上 正 博
常務取締役	明 石 靖 彦
取 締 役	戎 谷 公 伸
取 締 役	隈 透
取 締 役	南 部 俊 昭
取 締 役	田 崎 将 大
常 勤 監 査 役	正 木 政 弘
監 査 役	紅 野 正 樹
監 査 役	三 谷 昭 三
監 査 役	津 村 公 一

■ 株主優待

～1,000株以上お持ちの株主様への大きな特典～

株主ご優待カード



割引額	
真珠ネックレス	20%割引
その他の商品	15%割引

- 「株主ご優待割引券」との併用が可能です。
- 10月末現在の1,000株以上ご所有の株主様が対象となります。
有効期間は、翌年1月末までの1年間です。
また、11月1日以降翌年4月30日までに新規に1,000株以上ご所有となられた毎年4月30日現在の株主様に対しまして、残余の有効期限を有する株主ご優待カードを発行いたします。
- 10月末現在の株主様には翌年1月下旬に、4月末現在の株主様には7月上旬にお送りしております。

株主ご優待割引券



発行基準			
1,000株以上	1枚	20,000株以上	6枚
3,000株以上	2枚	30,000株以上	8枚
5,000株以上	3枚	50,000株以上	10枚
10,000株以上	4枚		

- 年2回、10月末・4月末日現在の株主様が対象となります。
- 1枚1万円相当/発行後1年間有効です。
- 10月末日現在の株主様には翌年1月下旬に、4月末日現在の株主様には7月上旬にお送りしております。

■ 株式の概況 (平成19年4月30日現在)

■株式の種類：普通株式

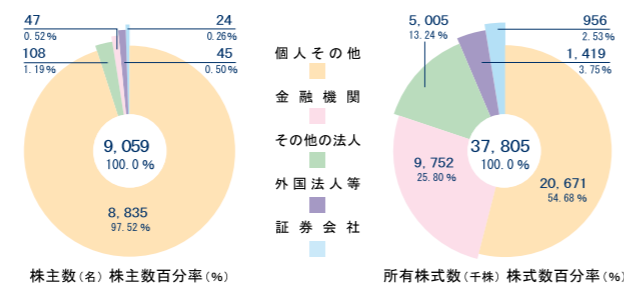
■株式数：発行可能株式総数 120,000,000株
：発行済株式の総数 37,805,664株

■当期名義書換：件数 232件 株式数 :5,245,093株
■当期株主数 :9,059名

■大株主の状況

氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式の割合(%)
株式会社サハダイヤモンド	4,181,000	11.06
田 崎 俊 作	2,397,000	6.34
株式会社三井住友銀行	1,841,440	4.87
農林中央金庫	1,197,768	3.17
住友生命保険相互会社	927,000	2.45
株式会社近畿大阪銀行	699,057	1.85
メルリンテ日本証券株式会社	687,862	1.82
住友信託銀行株式会社	683,000	1.81
田崎真珠社員持株会	643,224	1.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	461,000	1.22
合 計	13,718,351	36.29

(注)当社は自己株式567,227株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。



■株主メモ

事業年度 毎年11月1日から翌年10月31日まで

定時株主総会 毎年1月開催

基準日 定時株主総会 毎年10月31日
期末配当金 毎年10月31日
中間配当金 毎年4月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
(その他のご照会) ☎0120-176-417

(インターネットホームページURL) http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 全国各支店

上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部

公 告 の 方 法 電子公告(当社のホームページに掲載します。)
<http://www.tasaki.co.jp/what/index.html>